

平成25年度公立大学法人横浜市立大学の年度計画に対する各委員評価一覧

年度計画（項目）	頁	自己評価	委員評価	コメント
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	13	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 英語教育の充実、各種留学促進措置の充実、キャリア形成支援等社会のニーズに即した教育の質向上のためのきめ細かく努めていることは認められるが、医学部学生の受験に関わる組織的不正行為や留学生受け入れ数の減少等教育体制の基本にもかかわる問題を生じていることは遺憾。それらの抜本的改革への早急の取り組みを強く期待。 各種外部研究費の獲得、文科省COC事業への採択、先端医科学研究センターにおける活発な研究展開等研究活動の充実した発展を高く評価。
			B	
			B	
			B	
			B	
I-1 教育に関する取組	13	B	C	
			B	<ul style="list-style-type: none"> 学術情報センターにおいて収蔵スペースの改修に伴い、学術情報の整備が進められている。
			B	<ul style="list-style-type: none"> 新教育体系が徐々に軌道に乗り、広報活動の推進などと相俟って、懸念された国際総合科学部一般選抜で大幅な志願者増となったことを評価したい。 懸案の国際化の推進についても、英語教育の充実、専門教養科目の国際化、留学プログラムの拡充等と多様な施策を展開した。又アカデミックコンソーシアムも回を重ね内容の充実とともに着実に成果を上げており評価したい。
			B	
			B	

年度計画（項目）		頁	自己評価	委員評価	コメント
	I-1-(1)全学的な取組	13			<p>・医学部における2023問題対応への積極的取組を評価。</p> <p>・「会社史・団体史コーナー」新設、効率的な電子資料選定基準の策定等学術情報センターの資料の充実及び学修環境整備に努めていることを評価。なお次期図書館システムの仕様決定を計画通り進められたい。</p> <p>・アカデミックコンソーシアム事業を計画通りフィリピン大学で実施するとともに、特に医学部のアジアにおける拠点として同大学との協力関係の確立に努めていることを評価。</p>
					<p>・アジア地域を中心とする外国大学との様々な取り組みがなされている。</p>
					<p>・懸念されていた国際総合科学部の一般選抜の志願者数の減少について、平成25年度入試結果の分析、検討を踏まえ、広報活動を積極的に行い、平成26年度入試では2,529名と前年比820名増となったことは評価できる。</p> <p>・学術情報の整備について、学術情報センターの収蔵スペースの改修、拡充に合わせ、教育研究、診療に不可欠な電子資料等を効率的に購入する仕組みづくりや選定基準を策定したことは大いに評価したい。</p>
					<p>・入試改革の初年度であり、「志願者数は減少したが学力は一定基準を確保した」とあるが、むしろ向上しているのではないか。入試改革の効果を測るためには、入学後の追跡調査が必要である。</p>
					<p>○学位授与の適正性が話題となっている昨今の社会情勢に鑑み、学位審査等の内規の周知と適切な運用によって、学位授与の基準の明確化が着実に進められていることを評価する。</p> <p>☆入試改革初年度、英語の学力は一定水準を確保していることがわかったが、改革の積極的な効果について今後も適切な分析とフィードバックがなされるよう期待する。</p>

年度計画（項目）	頁	自己評価	委員評価	コメント
I-1-(2) 学部教育に関する取組	24			<p>・福浦キャンパスへのPEセンター分室の設置等英語教育の全学的充実への取り組みを評価。なおPE, APEの成績評価の明確な基準の設定を計画通り進められたい。</p> <p>・大学院早期履修制度の運用に関し全員6年一貫教育を目指すとすれば事前にその趣旨、範囲等の十分な周知徹底を図るべき（生命ナノシステム研究科）。</p> <p>・海外フィールドワークの充実、「海外研修」科目及びブリッジプログラムの新設、英語による履修モデルの整備、タマサート大学等との交換留学協定の締結等市大生の派遣及び留学生の受け入れの充実に努力していることは高く評価するが、正規の留学生受け入れ数が年々減少していることは大変残念。留学生の質の確保とともに特にその受け入れ数の増加に向けての戦略的取組を期待。</p> <p>・医学部4年次生が学内試験受験に関し組織的な不正行為を行ったことは極めて遺憾。他に学生の受講態度に問題があるとの指摘もあり、人間及び医師としての規範意識の確立に強力な取り組みを進められたい。</p> <p>・看護師の市域・県域医療機関への就業・定着促進のため、年度計画を着実に進められたい。</p> <p>・医師・看護師国家試験の高い合格率を評価</p>
				<p>・英語教育や留学プログラムの充実など国際化推進がなされている。</p> <p>・医師、看護師の国家試験の成績は良好である。</p>
				<p>・留学プログラムの拡充について、海外での学習成果をより柔軟に評価する科目として「海外研修」新設により教学上のルールを整理し、ブリッジプログラムを新設したことを評価する。又ベネチア大学、タマサート大学とも交換留学協定締結に至ったことも留学拡充につながるものと評価したい。</p> <p>・前年度若干低下した国家試験の合格率について実力試験、模擬試験のほか習熟度の把握、個別指導の徹底、学習計画の指導など万全の対策により医学科97.5%、看護学科100%の合格率となったことも評価できる。</p> <p>・平成26年3月に実施された医学部実技試験にからみ発生した学生の不正行為は極めて遺憾であり、学生の処分は当然とし、管理側にも反省すべき一端の責任があり、再発防止に万全を期すよう全力を上げてほしい。</p>
				<p>・留学生の送り出しも少ないが、受け入れの人数が激減したことは問題である。留学生の数と質の確保に務めるべきである。国家試験の高合格率を高める前に、学生の実力を高めることを目的として欲しい。</p>
				<p>☆留学プログラムの拡充が計画以上に進んだことを評価する。しかし一方で外国人留学生の志願者数が減少しており、今後出願要件を検討していくと記載されているが、それだけでなく外国人留学生の教育体制自体に改善が必要でないか検討する必要があるのではないか。</p> <p>☆医学科学生による試験課題の漏えいについては、これが偶然や出来心ではなく計画的かつ下級生に命じてやらせたという点から、重く受け止めるべきである。一般よりも一段高い倫理観が必要な医師という職業を志す者の自覚を促す倫理教育が不足していたのではないか。一時的でない対策を求めたい。</p> <p>☆医学科・看護学科の定員増があったにもかかわらず、さまざまなサポート体制によって国家試験合格率が前年度を上回ったことは評価できる。</p> <p>○医師不足解消・総合診療等地域貢献のための計画が策定され実施されていることを評価する。</p>

年度計画（項目）		頁	自己 評価	委員 評価	コメント
	I-1-(3)大学院教育に関する 取組	38			<ul style="list-style-type: none"> ・生命医科学研究科設置とともに理研、産総研との連携大学院が順調に進んでいることを評価。 ・大学院の適正な学生定員の確保に向けての積極的な取り組みを評価。特に生命医科学研究科の定員確保にさらに努力されたい。 ・医学研究科の今後の運営方向の明確化に努められたい。
					<ul style="list-style-type: none"> ・生命医科学研究科の設置に合わせ、理化学研究所及び産業技術総合研究所との連携大学院を開始したことは、教育、研究の充実、強化につながるものと評価し、その成果を期待したい。 ・学部、大学院一貫の教育体制により、大学院の早期履修制度を具体的に運用開始したことを評価する。
					<ul style="list-style-type: none"> ・生命医科学分野の再編の効果に期待する。

年度計画（項目）		頁	自己評価	委員評価	コメント
	I-1-(4) 学生支援に関する取組	44			<ul style="list-style-type: none"> ・授業料減免の新基準を適切に運用し、より多くの適格者を減免対象としていることを評価。 ・海外及び国内インターンシップともその充実に努めているものの実績が目標を相当程度下回っていることは残念。 ・全学組織としてキャリア形成支援委員会を設置する等全学的なキャリア教育体制の充実に努め、高い就職内定率を実現したことを評価。
					<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を重視し、成果を収めている。
					<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育体制の確立と就職支援の充実にについてキャリア形成支援委員会を全学委員会として設置し、平成26年度から学内共同組織「キャリア支援センター」を設置する方向で学内調整に入ったことは一定の評価をしたい。 ・就職内定率98.5%と国際総合科学部設立以来最高の就職内定率となったことは評価したいが、景気回復による就職環境の好転によるところもあり、今後はその内容（真に学生の望む先か、大学が期待する先かなど）に踏み込んだ評価が望まれる。
					<ul style="list-style-type: none"> ・就職支援は功を奏しているが、キャリア科目群の設置は世の中の水準より大幅に遅れている。実施に向けて早急に対処する必要がある。
					<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア形成支援委員会を新たに全学委員会として設置するとともに、学内共同組織「キャリア支援センター」を26年度より設置する方向で学内調整されたことを評価する。
	I-2 研究の推進に関する取組	50	B	A	
B					
A					
B					
A					

年度計画（項目）	頁	自己 評価	委員 評価	コメント
I-2-(1)研究水準及び研究の 成果等に関する取組	50			<ul style="list-style-type: none"> ・奨学寄附金、科研費等の教育研究に関わる外部資金獲得額が着実に増加し過去最高の38億円となったことを評価する。 ・文科省のCOC事業に採択され、教育、研究、社会貢献等大学の活動全体を通じて地域志向の大学を目指す具体的取組をスタートさせたことを高く評価し、今後の着実な展開を期待。
				<ul style="list-style-type: none"> ・外部資金獲得のために様々な準備をしている。 ・地域貢献センターの活動は評価できる。
				<ul style="list-style-type: none"> ・研究水準の向上と外部研究費の獲得拡大について、戦略的な取り組みにより、外部研究費獲得額が過去最高額の約38億円となったことは大いに評価したい。 ・文部科学省「地（知）の拠点整備（COC）事業」に採択され、横浜市の政策課題とも合致し、地域志向の大学の立場から全学的な取組をスタートさせたことは評価できる。今日的テーマであり、地域活性化のモデルとして今後の展開が期待される。
				<ul style="list-style-type: none"> ・外部研究費の獲得額を増やすための支援が実り、過去最高額の約38億円を獲得した実績は評価できるが、投稿論文の数や研究水準の向上に繋がっているかの検証が必要である。
				<ul style="list-style-type: none"> ○外部研究費獲得拡大への取り組みが継続してなされた結果、過去最高であった24年度を上回る38億円の外部研究費を獲得できたことは評価できる。 ○本学の教育・研究・診療に不可欠な電子資料等を中長期的に効率的に選定できる基準を策定するなど、学術情報の整備が進んだことを評価する。 ○文部科学省「地（知）の拠点整備（COC）事業」の採択に伴い、横浜市が推進する環境未来都市実現に向け、地域志向の大学を目指した全学的な取組をスタートさせたことは、市立大学の存在意義を高めるものであり評価できる。そのほかにも生涯学習の充実や研究成果・知的財産の社会への還元・地域医療貢献など地域貢献のための様々な課題を取り上げ実施していることを評価する。

年度計画（項目）		頁	自己評価	委員評価	コメント
	I-2-(2) 研究実施体制等の整備に関する取組	55			<p>・先端医科学研究センターにおける研究活動が順調に進展し、大型研究費の獲得、iPS細胞に関わる研究成果の著名な国際学術誌への掲載、またJSTの再生医療実現拠点ネットワークに採択される等の成果を挙げていることを高く評価。</p> <p>・先端医科学研究センターは小ぶりではあるが、成果を挙げていて素晴らしい。</p> <p>・先端医科学研究センターの施設、体制整備に伴い、iPS細胞のプロジェクト成果をもとにJSTの「再生医療実現拠点ネットワーク（拠点B）」に採択されたことは評価したい。</p> <p>・京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区事業に認定されている研究は10プロジェクトにのぼり、平成25年度新たに2プロジェクトが特区の枠組みの中で経済産業省の補助事業として研究開発をスタートさせたことも評価したい。</p> <p>・生命医科学研究科の設置、理研・産総研との連携大学院の開始が新しい研究体制を創出し、新しい分野の研究が展開・促進されることを期待する。</p> <p>○「産学連携ラボ」に入居した4社とも引き続き26年度も入居することが決定し、また、iPS細胞から肝臓作成に成功した研究成果が世界で評価されるなど、生命医科学分野の研究推進が順調に実施されていることを評価する。</p> <p>○国際戦略総合特区事業に認定されている研究のうち新たに2プロジェクトが経済産業省の補助事業として認められ、24年度からの継続事業と合わせて4プロジェクトが財政支援を受けたことは、自主財源確保の観点からも評価できる。</p>
	I-3 教育研究の実施体制に関する取組	57		B	<p>A</p> <p>・学術院の情報教育や医経連携ユニットの活動、文科省COC事業の獲得、大学全体の将来構想の検討等、学術院が着実に具体的活動を展開しつつあることを評価。</p> <p>B</p> <p>・かねてから懸案となっていた学術院の推進強化について、学長のリーダーシップのもと全学的な視点から組織横断的に教育の質の向上や国際化について検討する質的改革ミーティングを各分野ごとに立ち上げ、将来構想として「質的改革報告書」をまとめたことは評価できる。今後その具体化実現に向けた積極的、計画的な行動を期待したい。</p> <p>B</p> <p>・学術院の設置に伴い、領域横断的な教育研究が進展していくことを期待する。</p> <p>A</p> <p>○学術院の実質化に向け、文部科学省の各種情報について学内での共有をおこなうことにより、25年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に採択されたことは評価できる。</p> <p>☆学長のトップダウンにより本学の将来構想について分野ごとに検討し「質的改革（将来構想）報告書」が作成されたことを評価する。</p>

年度計画（項目）	頁	自己評価	委員評価	コメント
Ⅱ 附属2病院（附属病院及び附属市民総合医療センター）に関する目標を達成するための取組	58	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の医療事故等も踏まえ、附属病院に医療の質向上センターの設置等医療安全管理体制の充実に積極的に取り組んでいる。 ・センター病院で統合患者サポートセンターや患者向け情報ライブラリーの開設等きめの細かい患者対応の充実に努めている。
			B	
			A	<ul style="list-style-type: none"> ・附属2病院において、これまで着実に進めてきた病院施設の拡充、体制の整備に加え、政策的医療や高度で先進的な医療への積極的な取り組みと地域医療機関との連携強化により、文字どおり地域中核病院として大きな成果を上げたことを評価したい。センター病院が民間の経済紙とは言え「頼れる病院ランキング」で2年連続全国1位となったことは、その一つの証左である。
			B	
			B	
Ⅱ-1 医療分野・医療提供等に関する取組	58	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・政策的医療取り組みを着実に進め、また地域医療連携の推進のため連携病院の増加、連携研修会の開催、高い患者紹介率・逆紹介率の確保等に努めていることを評価。 ・引き続き先進医療の推進に努めるとともに、センター病院におけるⅡ・Ⅲ相治験受託件数の増加や医師主導治験の開始等、臨床研究・治験への取り組みを強化している。
			B	<ul style="list-style-type: none"> ・救急医療、臨床治験の充実は、評価できる。
			A	<ul style="list-style-type: none"> ・附属病院では、DMATの体制整備により災害拠点病院としての地位を確立するとともに、地域がん診療連携拠点病院、横浜市認知症疾患医療センター等着実に成果を上げている。又センター病院では高度救命救急センター、精神科スーパー救急など救急医療のほか、母子医療センターの分べん受入増や生殖医療センターでの不妊治療など、附属2病院とも医療体制の整備拡充、医療機能の充実により、政策的医療の役割を十分果たしたと大いに評価する。 ・臨床研究、治験の環境整備が進み、2件の第Ⅰ相治験を受理したほか、第Ⅱ、Ⅲ相治験でも相応の受託件数の成果を上げたことを評価したい。 ・地域医療機関との病々連携、病診連携を推進し、附属2病院とも紹介率、逆紹介率で中期計画の目標値を上回る結果を上げたことも評価したい。
			A	<ul style="list-style-type: none"> ・センター病院における高度救命救急センターの高応需率（94.5%）、および総合周産期母子医療センターが多数の分娩を受け入れるなど地域への貢献度は高い。臨床研究および治験への取組も今後更に進めて欲しい。
			B	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年A評価となった高度救命救急センター・総合周産期母子医療センター等の政策医療、両病院の役割分担と地域医療機関との連携について、25年度も微増ながら順調に実績をあげていることを評価する。 ☆地域がん診療連携拠点病院の指定要件変更に伴い、未充足項目について対応を進めているとあるが、継続指定が切れる26年度末までに充足可能か？ ○先進医療や治験において、着実な取組を行っていることを評価する。

年度計画（項目）		頁	自己評価	委員評価	コメント
II-2 医療人材の育成等に関する取組	66	B	B	・臨床研修医育成に努め、協力施設の新規指定や特にセンター病院で初期研修医の募集定員を増加しかつその定員のフルマッチを達成したことを評価。	
			B	・初期臨床研修医のマッチング率が非常に高い。	
			B	・医学部定員増以降も質の高い病棟実習を行うため、メディカルトレーニングセンターの研修器具など備品の拡充や研修プログラムや研修室の環境改善など研修環境の充実が順調に進められていることを評価したい。 ・臨床研修医の育成のため協力施設の新規指定を進めるとともに、facebook等によるキメ細かい情報発信により、センター病院ではプログラム定員のフルマッチを達成し評価したいが、附属病院では産科小児科プログラムでゼロという結果となり残念である。	
			B	・総合診療医学教室の設置を決定、女性医師が働きやすい環境づくりの推進など、人材育成に向けた取り組みが散見される。	
			B		

年度計画（項目）	頁	自己評価	委員評価	コメント
Ⅱ-3 医療安全管理体制・病院運営等に関する取組	74	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・附属病院に組織横断的な医療安全推進を目的とする医療の質的向上センターを設置したことを評価。今後の実質的な活動展開を期待。 ・センター病院に来院患者の相談・苦情等を総合的に受け付ける統合患者サポートセンターを開設し、多様な相談ニーズへの対応を強化するとともに、医療スタッフの業務負担や心的ストレス軽減に努めていることを評価。 ・センター病院における病床利用率の向上、平均在院日数の減、手術件数の増等の努力を評価。
			A	<ul style="list-style-type: none"> ・両病院とも病棟稼働率、平均在院日数ともに良好。
			A	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の医療事故の反省に立って、附属病院ではマニュアルの再点検、危険な薬剤の管理適正化及び経管栄養マニュアルの作成のほか、組織横断的な「医療の質向上センター」を新たに設置した。センター病院でも院内会議でのインシデント情報の共有やグループワークの実施など、附属2病院とも医療安全文化醸成に各般の努力をされたと評価する。 ・患者支援体制の充実に向け、統合患者サポートセンターの設置のほか患者向け情報ライブラリーを設置するなど着実に取組を進めていることも評価したい。 ・附属2病院とも施設の拡充、体制の整備が順調に進み、加えて病院運営の管理徹底と効率化に注力し、診療収益の増収と諸経営指標の改善がみられ、病院運営の安定化に寄与したと評価したい。
			B	<ul style="list-style-type: none"> ・『医療の質向上センター』は全病院に設置することが望ましく、「生命の尊厳を深く認識した医療の実践」を実行することこそ、病院の最も大切な役目である。
			B	<ul style="list-style-type: none"> ☆医療の安全管理については計画通り実施されているが、25年度に発生した医療事故を踏まえ、引き続き、個人のミスが医療事故につながることを未然に防止できるような内部統制が有効に働く安全管理体制の構築と運用に取り組まれることを望む。 ○病院経営の効率化についての諸計画が実施され、センター病院で病床利用率・平均在院日数の中期計画目標数値を達成、両病院で人件費率の中期計画目標数値を達成したことは、評価できる。しかし一方で、26年度に予定している附属病院情報システム更新や今後先進医療を進めるために各種医療機器の導入等が必要なことを考慮すると、これからも財政的に厳しい舵取りが続くと思われる。引き続き取り組んでいただきたい。

年度計画（項目）	頁	自己評価	委員評価	コメント
Ⅲ 法人の経営に関する目標を達成するための取組	85	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き定期的な法人ニュースの発行等を通じて学内コミュニケーションの充実、法人教職員間の問題意識の共有化に努めるとともに、教員サバティカル制度の本格実施、各種実務研修の充実、メンタルヘルスケア充実の一環としての福浦キャンパスへの心理士の配置等きめの細かい人事管理上の措置を進めている。 ・経営高度化、ガバナンス強化の一環として法人役員への企業経営者の参加を評価。 ・外部研究費の獲得、両病院の診療収益の増収等種々の努力により黒字決算を達成したものの、実質的には前年度に比しかなり厳しい状況。今後の更なる経営努力を期待。
			B	
			B	
			B	
			B	
Ⅲ-1 業務運営の改善に関する取組	85	B	B	
			B	
			B	
			B	
			B	

年度計画（項目）		頁	自己 評価	委員 評価	コメント
	III-1-(1) ガバナンス及びコンプライアンスの強化など運営の改善に関する取組	85			<p>・新たに法人役員に企業経営者2名の参加を得たこと及び経営方針会議で外部専門家の意見を聞くなど、多様な視点から法人経営推進に努めていることを評価。</p> <p>・新たに学外の役員として、民間や企業経営者2名を加えたことは、理事会等のガバナンス機能の強化と活性化につながるとともに、多様な視点から大学運営を進める意味でもその効果を期待したい。</p> <p>・コンプライアンスの強化については、これまでの反省にたって教職員研修の充実や服務規律の徹底により意識啓発、コンプライアンスを重視する組織風土づくりに努力されてきたことは認めるが、一層の充実を期待する。</p> <p>・役員に企業経営者を加えたことにより、多様な視点から大学経営を見直すことができたことと思われる。</p> <p>○理事長と福浦キャンパスの教職員との対話など、一方通行でない学内コミュニケーションや、各種連絡会議の実施等による情報の共有は重要であり、それらの取組を評価する。 ○経営方針会議への外部専門家の招聘、企業経営者2名を役員登用など多様な視点を積極的に取り入れたことを評価する。</p>

年度計画（項目）		頁	自己評価	委員評価	コメント
	Ⅲ-1-(2) 人材育成・人事制度に関する取組	87			<ul style="list-style-type: none"> ・労働契約特例法の制定に伴う教員任期制の運用方法の早期再検討を期待。 ・教員のサバティカル制度が本格実施されたことを評価するが、対象人数の増大を期待。
					<ul style="list-style-type: none"> ・サバティカル制度は、少しずつ充実度を増していただきたい。 ・懸案のサバティカル制度について、平成25年度に要綱を制定、6月に公募により平成26年度適用者2名を決定したことは評価できる。 ・法人職員の育成について、研修及び人材育成制度を着実に進めており、大学、附属2病院にそれぞれメンターを2名ずつ配置したほか、固有職員の管理職への登用に加え、職員固有化を63.8%まで上げるなど、一定の成果を上げていると評価したい。 ・大学の運営は教員・職員の車の両輪がバランスを取って動くことが必要であり、教員の育成と共に職員の育成に各種の研修を導入したことは評価できる。
	Ⅲ-1-(3) 大学の発展に向けた整備等に関する取組	90			<ul style="list-style-type: none"> ・市との緊密な連携のもと理学系研究棟新築等八景キャンパスの整備が着実に進められている。 ・有力新聞への広告掲載をはじめ多彩な手段による入試広報の実施、ソーシャルメディアによる積極的な情報発信のための体制整備などの積極的な広報展開への取組みを評価。 ・海外派遣プログラム危機管理マニュアルの作成、公開を評価。
					<ul style="list-style-type: none"> ・懸案となっていた、八景キャンパスの再整備が着実に進み、理学系研究棟（新理科館）新築工事を予定通り竣工させ、一連の耐震補強工事が平成26年度以降本格化する見通しとなったことなど評価したい。今後安全かつ快適なキャンパス施設整備が図られることを期待したい。
					<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化対策および近年の光熱費高騰への対策として、省エネルギー活動を実施していることは評価できる。夏期に一斉休業日（病院を除く）を設けることはできないか。
					<ul style="list-style-type: none"> ○金沢八景キャンパスの耐震補強事業が順調に行われていることを評価する。 ○基幹システム、基幹ネットワーク、認証ネットワーク、事務ネットワーク各システムを統合更新仕様とすることによりより効率的なシステム構築が可能となったことを評価する。

年度計画（項目）		頁	自己評価	委員評価	コメント
	Ⅲ-1-(4) 情報の管理・発信に関する取組	95			<p>・平成26年度6月に発生したメール誤送信による個人情報の漏えいは、対象が本学の学生の一部に限られていたこと、情報の内容が限定的であったことにより、大きな問題に発展しなかったとは言え、大学の信頼を損なう結果となったことは残念である。情報の重要性に対する認識の甘さと情報管理の不徹底さによるところであり、組織の責任としての再発防止に万全を期してほしい。</p> <p>・個人情報の管理に対しては徹底した研修を行うなど、流失防止に最善を尽くして欲しい。</p> <p>☆個人情報の外部漏洩事故については、コンプライアンス意識の欠如というよりは、個人のミスが大きな事故につながることを防止する内部統制制度の不備を示していると思われる。制度の点検と改善に努めていただきたい。 ○大学情報の積極的な発信に意欲的に取組んだことは評価できる。</p>
	Ⅲ-2 財務内容の改善に関する取組	100	B	B	<p>・大学部門では研究体制の整備拡充と研究水準の向上により、外部資金獲得が増加し、附属2病院においては病院の施設拡充と体制整備に加え、病院運営全般の管理徹底と効率化により診療収益が大幅に増収となった。又横浜市の給与支給見直し措置という特殊要因による人件費の削減等もあり、各部門とも黒字決算となり、純資産合計は前期末比1,027百万円の増となった。総じて財務内容は改善されたと評価したい。</p>
				B	
				B	
				B	
				B	

年度計画（項目）		頁	自己評価	委員評価	コメント
	Ⅲ-2-(1) 運営交付金に関する取組	100			
	Ⅲ-2-(2) 自己収入の拡充に関する取組	100			<p>・自己収入の拡充について、研究体制の整備、研究水準の向上など戦略的な取り組みにより外部資金の獲得に大きな成果を収めたことは評価できるが、かねてから懸案の寄付金拡充については前年比微減の10百万円程度に留まっており、同規模大学に大きく遅れをとっていることは否めない。公立大学の特質、本学の歴史にも起因しているが、OBの組織再編と関係強化が急務である。</p> <p>○外部研究費獲得拡大への取り組みが継続してなされた結果、過去最高であった24年度を上回る38億円の外部研究費を獲得できたことは評価できる（再掲）。</p>

年度計画（項目）			頁	自己評価	委員評価	コメント
		Ⅲ-2-(3) 経営の効率化に関する取組	103			・法人業務全体の増加傾向の中で平均超過勤務時間数の減少を進めていることを評価。
Ⅳ 自己点検・評価、認証評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための取組			105	B	B	・各年度の自己評価結果の概要及びそこで明らかになった課題とその解決への取組みを簡明に整理し、公表することを期待。
					B	
					B	
					B	
					B	